

YNU

VOL. 199

YOKOHAMA National University
Public Relations Magazine
横浜国立大学 広報誌

進化するYNU
CHALLENGING
SPIRIT
新たなステージへ



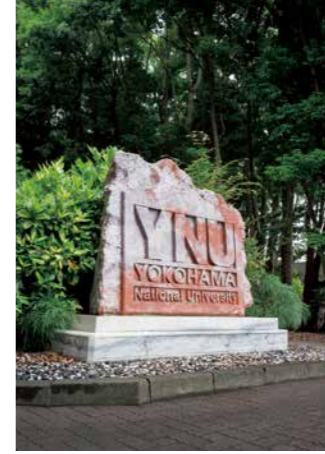
 YNU Initiative for Global Arts & Sciences



新たなステージへ

長谷部勇一教授(大学院国際社会科学研究院)が次期学長予定者に決定

2014年11月、長谷部勇一教授が次期学長予定者に決定。
社会科学系の学長が誕生するのは、40年ぶりのこと。
経済学の専門家が運営するYNU。そのビジョンと抱負について語ります。



表紙:2010年に設置されたYNUモニュメント。協定校であるダナン工科大学の協力により、ベトナムで作成

進化するYNU CHALLENGING SPIRIT

新たなステージへ

30年後、人類の平均寿命は100歳を超えていると言われています。科学の進歩がもたらす予測です。現在は人も組織も足早に成長しています。YNUもこの道程を歩まなければならないのは当然です。一方、科学技術の象徴となっているコンピュータによる人工知能の発達により人がコンピュータに操られる時代が来るという警告もあります。私たちは科学技術の進展とどう折り合いをつけるのか、こうしたことが大きな課題となってくるでしょう。本学においても高等教育機関として成長しなくてはなりません。健全な成長を遂げるためには大学の構成員みんなが大学の本質を忘れず進歩をしていく必要があります。横国魂、YNUイズムを大切にすることを願っています。

広報YNU vol.199 CONTENTS

進化するYNU CHALLENGING SPIRIT

03 新たなステージへ

長谷部勇一教授(大学院国際社会科学研究院)が次期学長予定者に決定

06 学生から次期学長予定者へ質問!

08 YNU校友会の発足を記念して

10 特別企画 あなたはなぜYNUへ?

12 大学院都市イノベーション学府/ 博士課程前期建築都市デザインコース Y-GSA 小嶋一浩教授

13 研究室探訪 大学院工学研究院 上田一義ゼミ

14 Campus News

15 メディア掲載情報(2014.08-2015.01)



YNUの未来に向けて

経済学の専門家なのに、実は数学が大好き!
次期学長予定者に内定した
長谷部勇一先生の知られざる素顔に迫ります。

聞き手 / 広報・渉外課

研究者としての自己紹介

私は経済学の研究を続けてきましたが、もともとは理数系、特に数学が大好きでした。親の勧めもあって、経済学の道を選びましたが、計量経済など数学を応用する分野もあることが分かり、後に専門分野となる産業連関分析の道を選びました。経済学の研究者になりたいと思ったのは、1973年、大学1年生の時でした。その年の11月にオイルショックが勃発。日本経済の成長とともに自らも育った私にとって、不況や恐慌は大きなショックでした。経済は順調に発展するばかりでなく、景気循環があるということを目の当たりにして、経済のしくみを深く学びたいと思ったのです。

行政を動かした
文理融合の研究

私は経済学の研究を続けてきたが、もともとは理数系、特に数学が大好きでした。親の勧めもあって、経済学の道を選びましたが、計量経済など数学を応用する分野もあることが分かり、後に専門分野となる産業連関分析の道を選びました。経済学の研究者になりたいと思ったのは、1973年、大学1年生の時でした。その年の11月にオイルショックが勃発。日本経済の成長とともに自らも育った私にとって、不況や恐慌は大きなショックでした。経済は順調に発展するばかりでなく、景気循環があるということを目の当たりにして、経済のしくみを深く学びたいと思ったのです。

グローバル新時代から
未来に向けて

私は、今の日本はグローバル新時代にあると考えています。90年代の市場経済のグローバル化がさらに進み、2000年代からは経済成長の中心が、中国、そして東南アジアに。日本や欧米の企業進出も中国、東南アジアに拡大しています。大学の連携も、欧米だけ

でなく、中国、ベトナム、マレーシアなどに広がっている。YNUは留学生が多いことで有名ですが、その大半はアジアからの学生です。彼らは、アジアで初めて先進国入りした日本の経済成長や技術の役割を学びたいと思っています。私たちはそんな東南アジアに軸足を置いて、グローバル化を図るべきではないでしょうか。東アジア、東南アジアは、文化的、宗教的にも

多様性があります。社会科学や人文科学のしつかりとした研究成果が必要とされる時代なのだと思います。YNUには多様な分野の先生がいるので、多様性のある知見という財産があります。10年後、20年後の日本や世界はどうなるのか。未来に向けて、YNUは今まで以上に実践的な教育研究を推進し、地域や日本に貢献していくことができるでしょう。

本学の強み

人文系・社会系・自然系の融合性、教育研究の実践性、国際交流の活発性という強みを最大限に活かす。学内の意見を聞きながらリーダーシップを発揮し、女性や外国人など幅広い人材を登用したいと考えています。

連携の強化

横浜・神奈川は、高度な産業基盤を有する一方、産業構造の変化による空洞化、郊外住宅地・団地の衰退などの問題があります。大学がハブとなり、地元自治体、企業、住民と連携して課題を解決していきます。

グローバル新時代こそ 実践的な教育研究を推進

長谷部勇一 HASEBE Yuichi

次期学長予定者
大学院国際社会科学府・研究院 教授

1954年生まれ。1981年一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。1984年横浜国立大学経済学部助教授。1990年カリフォルニア州立大学バークレー校客員研究員。1996年横浜国立大学経済学部教授。2008年同大学大学院国際社会科学府教授

重要項目

- ① 人文・社会・自然科学の連携、アジアとの連携、大都市と地方・農村との連携という3つの連携。
- ② グローバルな視点での強化と同時に、全人的な資質とローカルな視点を有する人材の育成。

21世紀戦略

約900名の本学留学生の大半はアジア出身者。学内に多様な言語、文化、宗教が存在し、海外にも卒業生ネットワークが。オールYNUで知恵を出し合い、グローバル新時代にふさわしい人材育成を先進的に進めたい。

大学を取り巻く現状

国立大学は大学改革を強く求められ、18歳人口の減少、競争的運営費交付金システムの導入など、厳しい時代に。今後3期中期計画に向けて、特長を強く打ち出す「YNU21世紀戦略」が求められています。

学生から次期学長予定者へ質問!

「総合科目が物足りない」「YNUは地域とどう関わる?」
ストレートな質問をぶつける現役学生。
次期学長予定者・長谷部先生との本音トークが炸裂です。

聞き手 / 広報・渉外課



文理融合の視点で 教養教育も改革

名和 学生にフォーカスして、大学のしくみやルールを変えたい意向はありますか?

長谷部 具体的にはどのようなことですか?

名和 昨年度の秋学期、近未来医療に関する講義を受講しました。基礎研究を学んだうえで、総合科目の知識を学ぶのがいいと思うのですが、総合科目は2単位、つまり1講座しか取れません。上限が28単位ですが、その中の2単位というのはちょっと物足りない気がします。

長谷部 総合科目は文理融合的な考えに基づいてプログラムされているのですが、私もまだまだ少ないと思っています。2年後には、教養教育の改革が導入される予定です。アカデミックリテラシー、シビルリテラシー、情報リテラシーという3つに再分類します。今、身につけるべき素養

という観点から科目設定を行うので、大幅に変わると思いますが。

地域との連携が 学生の学びに

二見 私は教育にとっても興味があり、将来も教育関連の仕事をしたかと思っています。この夏、文部科学省のインターンシップを経験しました。小中学校を中心に、地域との連携による「コミュニティ・スクール」というものが、全国的に展開されています。3・11以降、コミュニティの必要性について痛切に感じる人も増えています。学校と地域との連携について、先生はどうお考えですか?

長谷部 大変重要だと思っています。YNUの地域実践教育研究センターをご存知ですか? 10年前、私が経済学部長の時に発足に携わりました。地域のさまざまな課題を解決するために、毎年課題プ

て、自分の視点は変わりましたか?

名和 イスラム教に対しては、過激派などの報道を通じて知ることしかできず、まったくの未知の世界でした。でも、マレーシアに行つて考えが一新。中国系の人々が多く、バリンガルは当たり前、マルチリンガルも多い。カルチャーショックを受けました。

二見 私はYNUの環境が好きでこの大学を選びました。ここで自分の将来像を見つけたいと思っています。

長谷部 10年後、20年後には、君たち学生は、社会の中核となります。その時に、YNUのキャンパスで学んだことの価値を実感してほしい。そのために必要な教育は何なのかを常に問いながら、カリキュラムの改善をはじめとする改革を推進していきたいと思えます。

社会人になった時 価値がわかる教育を

名和 私は来年留学を考えています。YNUは他の大学と比べると交換留学の枠が多いのですが、イギリスの大学などに要求されるスコアが高く

プロジェクトを行っています。学生に応募をかけて、教員が担当者となります。

私が関わった神奈川流域圏の研究(4頁参照)のフォローアップとして、水質調査や水源環境税の使途評価の提出なども行っています。地域に目を向けるとたくさん課題があります。それらを行行政やNPO、住民の皆さんと一緒に、具体的に解決するのは、非常に実践力がつくと思います。現在YNUは、横浜市、保土ヶ谷区、都留市など包括協定を結んでいます。今後はさらに地域の課題解決に向けて、教育研究を推進していきます。

て、枠が余っているのが現状です。学内で、もっと英語教育に対する取り組みを行ってほしいです。

長谷部 今、求められているのは実践的な英語能力。経済学部では8年前から、欧州の大学の学生と、英語討論会を行っています。環境や原発などのテーマに沿って、学生同士で討論を行う。3年前からは中国の学生との英語討論会を行っています。「自分は何を言いたいのか」という部分を磨かないと、英語のコミュニケーションスキルは上達しません。実践力を磨く英語教育を拡大していこうと考えています。

名和 昨年はUUM(ウタラマレーシア大学)プログラムで、マレーシアに行きました。学内でも、留学生との交流する機会がもっと増えたらいいと思います。

長谷部 留学生が900名近くいて、さまざまな言語が行き交い、交流ができるのは大事ですね。マレーシアに行つ

地域の中でYNUができることは?

二見英里

FUTAMI Eri
教育人間科学部
学校教育課程
3年

充実した英語教育を望んでいます

名和宏晃

NAWA Hiroaki
経営学部
国際経営学科
2年

実践的な教育研究を
文理融合の視点で
さらに推進します

長谷部勇一
HASEBE Yuichi
次期学長予定者

保護者も校友会の情報を通じて
YNUとの距離が近づくといいですね —— 西島



西島 菜央 NISHIJIMA Nao
経済学部国際経済学科3年
YNU 校友会幹部
木崎ゼミ所属、校友会幹事。今年度春学期は学生発案型授業の運営メンバーとして活動

西島 とてもありがたいお言葉です。私は1年生から富丘会のビジネスプランコンテストの勉強会に参加して、2012年第7回はコンテストで準優勝をいただきました。現在コンテストには経営学部や経済学部の学生が多いので、理工学部や教育人間学部など全体に広がればいいなと思っていました。校友会をきっかけに、社会の現状や産業界の知識や情報が得られるのは、学生にとって非常に大きなメリットだと思います。

保護者にも広がる
オールYNUの
ネットワーク

北澤 2015年から、入学



YNU 校友会の発足を記念して **YNUの魅力を
社会や世界にアピールしよう!**



YNUに関わる全ての人が集う校友会が設立。
現役学生、OB、事務局長が校友会に対する思いを語りました。聞き手/広報・渉外課

大学と社会をつなぐ
OBのネットワーク

北澤 長い期間をかけて準備を進めてきた、YNU校友会をついに発足することができました。2004年の独立法人化以降、国立大学は社会的存在の意義を問われるようになり、存続をかけた競争原理にさらされています。校友会は、現役学生、卒業生、現職の教職員、そのOBを会員とする組織です。オールYNU体制で、私たちが将来に向けて邁進する姿勢を社会に認めてもらい、社会的意義を評価してもらおうための会です。

杉田 私は今まで母校のYNUにほとんど貢献できずに、会社の仕事に人生の大半を捧げてきました。今回副会長に任命されたことをきっかけに、母校に恩返しをしたいと思っています。校友会の魅力のひとつに、OBのネットワークがあると思います。大学という教育機関の中では、教員と学生は専門領域についての勉強や研究に集中しています。しかし、卒業して社会に出

と、専門領域の仕事をする場合でも、大学で学んだ専門知識以外にも広範な知識や情報が必要となります。特に、世界的にさまざまな産業の構造や経済の潮流が大きく変化している現在、その変化の胎動を知ることは非常に大切です。そういった部分で、私たちOBが校友会を通じてサポートできることは多いのではないかと思います。また、現役学生が進路を決める際にも、OBのネットワークを活用してもらいたいと思っています。OBには各界の有力者がたくさんいるので、希望する学生が校友会を通じて、さまざまな企業でインターンの経験をする機会を提供することも実現したいと思っています。



杉田亮毅 SUGITA Ryoki
YNU 校友会副会長
公益社団法人日本経済研究センター
代表理事会長、株式会社日本経済新聞社参与
ジャーナリスト、実業家。1937年長崎生まれ。1961年横浜国立大学経済学部卒業、日本経済新聞社に入社。同社の代表取締役社長、会長などを歴任

現役学生にOBのネットワークを
活用してほしい —— 杉田

生から校友会費を2万円いただくことになりました。実際にお支払されるのは学生の親御さんです。保護者の方々に情報を提供する意味でも、講演会を開催するなど、保護者の皆さんが大学にいらつしやるきっかけを作っていきたいですね。

杉田 なかなか見えづらいものですが、学内のニュースを伝える会報誌や講演会を通じて、保護者と大学の距離を近づけるように努力します。

強固な基盤を築き
さらに発展する大学に

北澤 YNUは、「実践性」、「先進性」、「開放性」、「国際性」の4つの憲章を掲げて、創造性の高い実践の高度専門職業人を体系的に育成し、社会や世界に「知」を発信する



北澤尚徳 KITAZAWA Hisanori
YNU 校友会 事務局長
1966年横浜国立大学経済学部卒業。三菱レーヨン株式会社に入社。1976年、花王株式会社に転籍。2014年より横浜国立大学校友会事務局長就任

北澤 校友会は、本学に関わる場を目指します。会員間の交流が深まり、YNUの基盤がより強固となって、さらに発展できるように頑張っていきたいと思います。

校友会がきっかけとなり
YNUが発展することに期待 —— 北澤



YNU 校友会の発足と同時に WEBサイトも公開! 最新情報をお伝えします。
▶ <http://koyukai.ynu.ac.jp>
お問い合わせ 横浜国立大学校友会事務局 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1 本部西棟
TEL : 045-339-3177 FAX : 045-339-3178 e-mail : koyukai@ynu.ac.jp

留学生・外国人研究者インタビュー

あなたはなぜYNUへ?

国際色豊かなYNUのキャンパス。そこで学び、指導をする外国人の方々に、大学に対する思いを聞いてみました。

聞き手/広報・渉外課

バスネット・エソダ BASNET Yasoda
国際社会科学府 国際経済法学専攻 博士課程後期
ネパール出身

2005年日本に留学。日本語学校で学んだ後、旅行ビジネスの専門学校に入学。都内の旅行会社で2年間働いた後、2010年大学に編入。2012年横浜国立大学の修士課程に進学

日本大好き!



留学生にやさしいYNUは私にとって第二の家

日 本に留学したいと思ったのは、青年海外協力隊など、日本人に対してとてもいい印象があったから。家にホームステイしていた日本人の大学生から「日本人は全員学校に行ける」と聞いて素晴らしいと思いました。ネパールの識字率は68%、女性は55%程度です。

日本に来た当初は、日本人のことがよくわかりませんでした。フレンドリーなネパール人に比べて控えめな人が多いので、「嫌われてるのかな?」と患ったくらいです。少しずつ日本語が話せるようになると、日本人とのふれあいが増え、相



手のことを思っって行動してくれることがわかりました。YNUは私にとって第二の家。留学生向けのプログラムが充実し、寮があるなど、留学生が安心して勉強できる環境や制度が整っています。さまざまな国籍の学生がいるので、キャンパスの中で国際交流できるのも魅力。いろんな国の友だちができたので、アジアのどこに行っても困らないでしょう。先日は、YNUで知り合ったミャンマー人の友だちがネパールに行くことをSNSで知り、カトマンズで一緒に食事をしました。こんなことができるのもYNUならではの魅力です。

私の研究テーマは「ジェンダーと開発」。国際機関の援助がネパールの女性たちにどのような役割を持っているかを調査し、分析しています。将来はYNUで学んだことを活かして、母国の大学で教育を通して次世代に貢献したいと思っています。

日本食、最高です



日本語、英語プラス1のマルチリンガルの時代に

私 がはじめて日本に来たのは1989年。当時、経済大国として世界中から注目されていた日本という国を知りたいと思ったのがきっかけです。

YNUに来る前は私立大学で英語を教えていました。その学生は、どこか皆同じカラーでした。でもYNUは学部によってカラーが違います。そこが非常に面白い。どの学部がどうとは、あえて言いませんが(笑)。

国際教育推進委員長になってから、欧州討論会や海外の企業訪問プログラムなどをオーガナイズする仕事もしています。海外に行っているのは、マルチリンガルの時代になったということです。母国語と英語プラス他言語の、3つの言語を使える仕事やネットワークが大きく変わってきます。

私は大学生の仕事は「質問をすること」だと思っています。社会を冷静に見て、そこにどんな問題があり、どうやって解決す



べきかを考えます。悪い面については仲間と議論を交わし、改善していこうとします。そして「僕たちはここまで頑張った。できなかつた部分は君たちにまかせ」と次世代にバトンを渡してほしいのです。

外国語を勉強するのは、実は母国のことを理解するためだと私は思います。自分の国や文化を外から見て、その魅力や面白さにはじめて気づくことができるのです。YNUの学生が、マルチリンガルになれるよう、教育環境を整えるサポートをしていきたいと思っています。

マッコレー・アレキサンダー MCAULAY Alexander
大学院国際社会科学研究院教授 イギリス出身

1988年グラスゴー大学教養学部卒業。1998年レディング大学で英語教育修士課程修了。1993年就実女子大学講師、1999年上智大学講師、2001年横浜国立大学准教授、2010年より現職

YNUの国際交流事業

YNUの4つの精神のひとつに「国際性」を掲げ、さまざまな国際交流事業を行っています。



国際みなとまち大学リーグ Party-city Universities League

2006年に発足した、世界有数の港湾都市の大学連合。YNUに事務局を置き、12か国15大学(※)が加盟しています。港町と港町にある大学同士をネットワークで結び、文化について考察し、交流を深めています。※2014年11月1日現在



YNUの国際連携拠点 International Cooperation Offices

同窓会活動のために、サンパウロ大学、ホーチミン大学、ナイロビ大学、華東師範大学、上海交通大学、大連理工大学、対外貿易大学の7か所に国際連携拠点を設置しています。



YNUの国際ブランチ International Branch

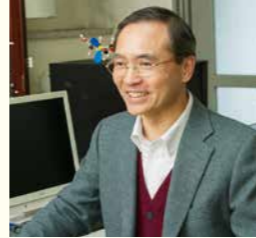
①教育の強化、②研究の強化、③ミッションの強み。学生側からは④基礎教育の強化、⑤世界標準での教育、⑥先端レベル教育—という6つの目的にあった国や大学に国際ブランチを設置しています。

大学院工学研究院 上田ゼミ

異分野の研究を支える 分子シミュレーション研究

2013年、ノーベル化学賞を受賞した計算機化学。
異分野からのラブコールが目白押しの旬な分野です。

聞き手／広報・渉外課



上田一義 UEDA Kazuyoshi

大学院工学研究院
機能の創生部門 理工学部
化学・生命科学科 教授

島根大学文理学部物理学専攻
卒業、広島大学理学研究科物
性学専攻修了(理学博士)。ダイ
セル化学工業総合研究所を
経て、2005年より現職

大学院都市イノベーション学府 / 博士課程前期
建築都市デザインコースY-GSA

大きな視野でイメージをして 五感で読み解き、創り上げる

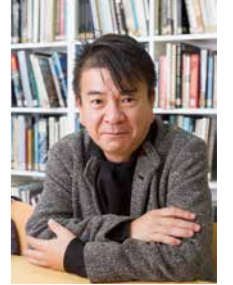
シアトルの図書館に挑戦、復興支援のヒアリング。
時に壮大で時にアクティブな活動を展開中。

聞き手／広報・渉外課

小嶋一浩

KOJIMA Kazuhiro

大学院
都市イノベーション
研究院 教授



1984年東京大学大学院修士課程修了。同大学
院博士課程在学中の1986年にシーラカンス(の
ちC+A、2005年よりCat)を共同設立。2005年東
京理科大学教授。2011年4月から横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院教授

最近では、京都大学の研究室とセ
ルロースのバイオマス燃料・原料利
用をテーマにした研究を行っています
。セルロースのいくつかの結晶モ
デルを使って、加圧した熱水への溶
解機構を私たちがシミュレーション
し、その結果を活用して、効率的な
実験が可能となりました。また、化
学会社とは、薬品等を作る際に生成

—— 具体的にはどのような共同研究
をされているのですか？

私の専門は、計算機化学です。コ
ンピューターを使って、分子動力学
シミュレーションや量子化学計算な
どを行い、分子の構造や集合体の物
性などの研究をしています。近年の
コンピュータ計算速度の凄まじい
進歩によって、数万原子からなる結
晶、タンパク質複合体といった分子
集合体のナノ〜マイクロ秒の分子運
動の計算も可能になりました。それ
を活用したいという異分野の研究者
との共同研究が増えています。

—— 先生のご専門、研究分野につい
て教えてください。

飛躍的な進化を遂げた
コンピューターの進化で

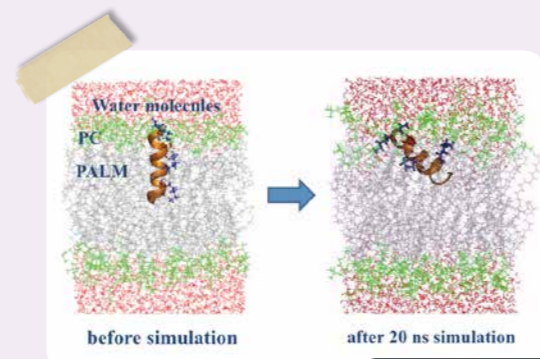
する、副作用のリスクとなる化合物
を分離する機構の共同研究を行っ
ています。

—— この研究室の特長について教え
てください。

週2回の基礎ゼミと1回の研究報
告会を行っています。各自の研究
テーマが内外の大学・企業との共同
研究なので、来客も多く、セミナー
も頻繁に行っています。また、昨年
は海外研究者招聘事業に採択さ
れ、アメリカからの研究者が2カ月
間研究指導してくれました。また、
モンゴルの大学院生・研究者との交
流も密に行っています。コンピュー
ターの画面を見ながらの作業が多い
のですが、学術的、国際的に開かれ
た研究室といえるでしょう。



モンゴルからの留学生による研究発表と、分子モデルを使った
学生による活発な英語での討論



細胞膜中のハチ毒
タンパク質の分子
シミュレーション

4つのセルロース
結晶モデル

Cellulose crystal information			
Cellulose I _β	Cellulose II	Cellulose III _β	Cellulose IV ₁
Cellulose I _β (triclinic) a: 0.415 nm, b: 0.360 nm, c: 1.035 nm α: 90°, β: 90°, γ: 120° V _{cell} : 0.152 nm ³	Cellulose II (orthorhombic) a: 0.415 nm, b: 0.360 nm, c: 1.035 nm α: 90°, β: 90°, γ: 90° V _{cell} : 0.152 nm ³	Cellulose III _β (triclinic) a: 0.415 nm, b: 0.360 nm, c: 1.035 nm α: 90°, β: 90°, γ: 120° V _{cell} : 0.152 nm ³	Cellulose IV ₁ (triclinic) a: 0.415 nm, b: 0.360 nm, c: 1.035 nm α: 90°, β: 90°, γ: 120° V _{cell} : 0.152 nm ³

シアトルを自腹で見学!?
実物を目で見て再読する

建築家としてのスペシャリストの養成
に特化したY-GSAには、研究室という
ものはありません。学生は、4人のプロ
フェッサー・アーキ
テクトによるスタジオ
に半年間ずつ所属。
2年間に4つのスタジオ
を履修して、単位
が全部とれたらブック
レットにまとめる。
それが修士論文となり
ます。

私のスタジオでは
「建築の再読」を行っ
ています。国内外で
出会った、質の高い、
どうしても気になる
建築。その裏にある
思想、構造、ディテールの組み込み方な
ども含めて、「再読」を行います。シア
トルの公共図書館がテーマの時は、自費
で現地へ行き、その建築を自分の目で見
て、体感。全員が1/50の模型を作りま
した。そのプロセスを踏まえて、横浜の
写真/山下ふ頭プロジェクト

どこかに公共図書館を創ることを想定し
て、シアトルに勝負を挑むつもりで建築
を考えてもらいました。

スタジオで作った作品は、講評会で発
表します。学生のプレゼンテーションに
対して、教授陣が批評を行う。それが試



験です。教授たちも、学生の作品を通じ
て、批評力や知見を試されるようで、独
特な緊張感に包まれた場となります。

また、行政や民間企業から依頼され、
教育的効果があるとされたプロジェクト
を「インディペンデント・スタジオ」と

して展開。私は、宮城県石巻市の牡鹿半
島での復興支援を行っています。土木の
コンサルタントによる高台造成や防潮堤
の復興計画を、地域の皆さんに模型やス
ケッチで説明し、彼らの意見に私たちの
知見を加えてフィードバック。地域の
人々の希望を実現
することを第一に、ス
ピードを落とさず活
動することを目標に
学生たちも頑張っ
てくれています。

我々教授陣は、学
生が魅力的に思うこ
とを常に面白がって
やっていきたい。自
分面白いと思うこ
とをやり続けていく
ことで、独立しても
企業にいても、何か
をまかされる存在に

なってほしい。その力をここでつけても
らいたいです。

大学という場と学生たちのパワーに
よって、設計事務所ではできない、実験
的な活動ができる。そんなY-GSAであ
り続けたいと思っています。

小嶋一浩スタジオ

「建築物の再読」として、シアトルの図書館、
代々木オリンピックプールなどを題材に、実地
を見て、模型を製作。そこから背景や思想を
考察。そこから発展して、新しい建築物を設
計する。

左/作品に対して教授が批評。緊張感がみなぎ
る 右/牡鹿半島での復興支援。地域住民へのヒ
アリング



新聞等 NEWSPAPER

● 「神奈川スマートエネルギー計画」について太田健一郎教授(大学院工学研究院)が水素エネルギーの可能性について語る(8/1 神奈川新聞)

● 7/17、中西準子名誉教授の瑞宝重光章受章を記念した企画展「リスク研究への道のり」の一環としてサイエンスサロンが開催され、学生ら30人が参加(8/1 タウンニュース)

● 取り壊し計画が持ち上がっている横浜最古の倉庫建築、旧日東倉庫日本大通倉庫をめぐるシンポジウムが開かれ、吉田綱市名誉教授、大野敏准教授(大学院都市イノベーション研究院)がコメント(8/7 神奈川新聞)

● 横浜国立大学の学生有志が地元和田町商店街を活性化させるために立ち上げた「和田ベンプロジェクト」が今年で10年目を迎え、大学と地域の橋渡しとして定着(8/8 神奈川新聞)

● 文部科学省による政策である国立大学の役割を明確にし、差別化を図る「ミッション(社会的使命)再定義」について、鈴木邦雄学長がコメント(8/18 日本経済新聞)

● 濱上知樹教授(大学院工学研究院)らが、機械学習を用いて患者の重症度を判定する新しいプログラム手法を開発。より効率のいい、迅速な医療対応が期待できるとしている(8/26 日本経済新聞)

● 教わる側が主体となり学びの質を高めようという「学生FD(Faculty Development)活動」を行う大学が増えており、横浜国立大学でもその活動が広がっている(8/29 毎日新聞)

● 他大学のゼミと交流しながらコンペを行う産学共同インターゼミナールを行うなど、データ重視の時代に自分でデータを収集し、検証、処理する能力を鍛える鶴見裕之准教授(大学院国際社会科学研究院)のゼミの紹介(9/18 販促会議)

● シンポジウム「持続可能な水道システムの確立～水道施設の長寿命化と技術開発～」が8/28・29の両日、横浜国立大学において開催。朝倉祝治名誉教授が主催者挨拶、川井謙一教授(大学院工学研究院)が共催者挨拶を、藤江幸一教授(大学院環境情報研究院)が基調講演を行った(9/18 水道産業新聞)

● 人口減少社会の中で将来を担う子供たちをどう育てていくべきか、高木まさき教授(教育人間科学部)のインタビュー記事が掲載(9/20 朝日新聞)

● 実用化前に先端医療機器の有効性や安全性の評価手法を研究する「かながわ医療機器レギュラトリーサイエンスセンター」が横浜市に開設。県より運営を委託され、河野隆二教授(大学院工学研究院)がセンター長に就任する(9/28 神奈川

新聞、読売新聞、朝日新聞)

● 「女性の活躍」法案をめぐる議論について、藤掛洋子教授(大学院都市イノベーション研究院)が、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)」が日本でどのような状況にあるかコメント(9/28 東京新聞)

● アジア大会陸上女子100メートル障害で木村文子(H23 教育人間科学部卒)が3位に入賞。銅メダルを獲得(10/2 朝日新聞)

● 東京・神田の旧東京電機大学跡地で開催中の「トランスアーツ・キョー 2014」にて、現代美術家・椿昇氏と室井尚教授(教育人間科学部)による巨大なパッタのバルーン作品が19・20日の両日展示された(10/9 産経新聞)

● 西沢立衛教授(大学院イノベーション研究院)と妹島和世さんの建築ユニットSANAA(サナア)が手掛けたスイス・ローザンヌの「ロレックス・ラーニングセンター」が掲載。山本理顕さん(横浜国立大学Y-GSA 初代校長)が手掛ける「ザ・サークル チュールヒ国際空港」の紹介も(10/12 産経新聞)

● 丸尾昭二教授(大学院工学研究院)が、針先や大面積基板など幅広い形状の上に微小構造を作るスポット造形技術を開発(10/15 日刊工業新聞)

● YNUミュージアムで開催される國領経郎先生(本学教育学部元教授)の展覧会開催に際し、10/23にオープニングセレモニーが行われた。鈴木学長ほか、ご遺族で絵の寄贈をされた甥の成田篤彦さんらも参加した(10/30 タウンニュース)

● 2014年度秋の叙勲において、飯田嘉宏元横浜国立大学学長が瑞宝重光章を受章。太田陽子名誉教授、並木博名誉教授が瑞宝中綬章を受章、関口欣也名誉教授が瑞宝小綬章を受章した(11/4 朝日、読売、日経、毎日、産経、神奈川新聞)

● 服部泰宏准教授(大学院国際社会科学研究院)による「心理的契約」と題した企業と従業員との関わりあいについての連載記事がスタート(11/15-19 日本経済新聞)

● 11/29、横浜国立大学と読売新聞横浜支局が共催する市民講座「都市とオリンピック」の最終回が、横浜国立大学教育文化ホールにて開催された。前半は長谷部勇一教授(大学院国際社会科学研究院)が2020年東京五輪・パラリンピックの経済波及効果について、後半は木村昌彦教授(教育人間科学部)が長年の指導経験で培われたコーチングについて講演(11/30 読売新聞)

● 経済学部と中国上海の華東師範大学商学院が学士課程の共同学位(ダブルディグリー)を取得できるプログラムを来年度から実施することで合意し、5日に覚書に調印した。国際社会で活躍できる人材の育成が狙いに(12/6 読売新聞、日経新聞)

● 野球の独立リーグ、BC(ベースボールチャレン

ジ)リーグのドラフト会議が行われ、理工学部4年曾根悠介さんが埼玉県の武蔵ヒートベアーズに6巡目で指名された(12/19 神奈川新聞)

● 横浜市道路局と横浜国立大学は22日、橋やトンネルの保安全管理に関してお互いに協力する協定を締結した。インフラの老朽化が進む中、大学の持つ最先端の技術を活用し、修繕計画の効率化やコスト縮減を図るのが狙い(12/23 神奈川新聞)

● 川崎の不動産会社NENGO(ネンゴ)、横浜の不動産会社リスト、大学院建築都市スクール(Y-GSA)が連携し、住宅のリノベーションを通じて地域を活性化するプロジェクトを始動させた。空室率が高い賃貸集合住宅を地域との相互活性化をテーマに大規模改修し、関心のある人を居住者に選ぶ(12/25 神奈川新聞)

● 杉内肇講師(大学院工学研究院)らはローラースケートで滑りながら移動するロボットを開発。人間の足の動作をまねて地面を交互に蹴って進む。将来はオフィスや工場の監視、警備などの用途を見込む(1/7 日本経済新聞)

テレビ・ラジオ TV・RADIO

● 「クローズアップ現代」(9/1 NHK総合テレビ) … 「シリーズ 成長への人材戦略(1)どう確保? 有望な新卒」にゲスト登壇/大学院国際社会科学研究院 服部泰宏准教授

● 「まる得マガジン」(9/1 NHK Eテレ) … 「さらばクセ字! 初めての美文字レッスン」(全8回)に講師として出演し、美しい文字の書き方を指南/教育人間科学部 青山浩之教授

● 「あさイチ」(9/2 NHK 総合) … 洗浄の専門家として炭酸塩の洗浄作用の説明に協力/大学院環境情報研究院 大矢勝教授

● 「秋の花火会」(10/11 J-COM 東京北) … 東京都北区の花火会でライブ放送にて解説/大学院環境情報研究院 三宅敦己教授

● 「マサカメTV」(11/15 NHK総合) … ジェットバスに関する伝熱学的な説明を行う/大学院工学研究院 宇高義郎教授

● 「バース・デイ」(12/13 TBS テレビ) … ポートレーサーのドキュメンタリーの中で、ボートの旋回テクニックについて流体力学の面から解説/大学院工学研究院 日野孝則教授

● 「らららクラシック」(2015 1/10 NHK Eテレ) … ヨハン・シュトラウス作曲「美しく青きドナウ」に関して、この作品が生まれた当時のウィーンの政治的・社会的状況、ウィーンでダンス音楽が流行した理由等についてコメント/教育人間科学部 小宮正安准教授



イベント

第9回横浜国立大学ホームカミングデーを開催

「オールYNU未来を拓く」のテーマのもと、10月25日に第9回横浜国立大学ホームカミングデーを開催し、合計17のイベントに延べ1000人余りの方の参加がありました。メイン講演では、元プロボクサーで、現在は神奈川県川崎市に設置された川崎新田ボクシングジムの会長を務める新田涉世氏(平成4年度に本学教育学部を卒業、第32代東洋太平洋バンタム級チャンピオン)がリングを通して人

作りをする活動について熱く語られたほか、その他の多彩な企画が、横浜国立大学の現状をよく表していました。

また交流会は、横浜国立大学 Bay Sound Jazz Orchestra の演奏により華やかな雰囲気の中で開催され、学生・教職員・OBが300人以上集い、閉会時には参加者全員で学生歌「みはるかす」を斉唱するなど、たいへん賑やかな会となりました。

上/メイン講演中の新田涉世氏 下/交流会参加者による「みはるかす」斉唱の様子



新研究院の発足

先端科学高等研究院 開所式・シンポジウムを開催

11月17日、先端科学高等研究院の開所式・シンポジウムを開催しました。本研究院は科学技術の進歩と社会の要請に応じた「実践的学術の国際拠点」としての本学の機能を一層発展させるために設置されました。

当日は研究院長を兼務する鈴木邦雄学長の挨拶に始まり、藤江幸一副高等研究院長による研究院の概要説明などがあり、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。



教職員勉強会

大人のための学びのひろば 「ミドル層から大学を変える」を開催

係 長以上の年齢層の職員を対象とした「大人のための学びのひろば」が9月12日、本学で開催され、21の国公立大・機関から77名の教職員が参加しました。

民間企業出身の大学職員3名によるパネルディスカッションでは、民間の発想を大学の業務へ落としこむ手法について討論がなされ、グループワークでは、業務上の失敗の背景やその原因・解決策等を探り、ミドル層におけるマネジメントスキルの向上を図りました。



【YNUミュージアムコレクション④】

機構学模型教材

弘明寺キャンパスの機械工学科製図室の棚に保管されていた機構学の模型。機構学は機械工学の重要な一分野であり、機械の相對運動の仕組みを研究する学問。模型は島津製作所製で、銘板には「大連」の刻印があるので、昭和初期の横浜高等工業時代に購入されたと思われる。

横浜国立大学広報誌 第199号

2015年2月16日発行

編集・発行	国立大学法人横浜国立大学広報委員会 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号
YNU編集委員長	山田 均（理事・副学長／大学院都市イノベーション研究院 教授）
編集・発行	横浜国立大学 総務部 広報・渉外課 TEL. 045-339-3016 FAX. 045-339-3179 URL. www.ynu.ac.jp
アートディレクション	神里僚子（経営学部卒業生）／株式会社リポグラム

横浜国立大学ホームページ URL ▶ www.ynu.ac.jp

横浜国立大学で行われる各イベントに関する情報は、上記アドレスからご覧になることができます。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University